

2021年2月21日 (No47)

主日礼拝

司会：岸澤恵美 奏楽：松村宣恵

- 前奏 奏楽者
讃美歌 85 (二回) 一同
祈り 司会者
聖書 申命記30章15~20節 (旧約聖書329頁)
マタイ福音書4章1~11節 (新約聖書4頁) 司会者
讃美歌 355 一同
分かち合い礼拝 聖書の言葉と一週間 みんなで
讃美歌 284 一同
献金と感謝の祈り 一同
主の祈り 62
頌栄 キリストの平和が (1・5) 一同
祝禱 一同
報告

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会 カフェ・ぶらぶら
・2月24日(水) 午後7時
ゼカリヤ書5章1~4節 (旧約聖書1484頁)
讃美歌 220、529

【次週の予定】

◇レント第2主日礼拝
・2月28日(日) 午後2時 カフェ・ぶらぶら
・聖書 イザヤ書35章1~10節 (旧約聖書1116頁)
マタイ福音書12章22~23節 (新約聖書22頁)
・説教 「荒れ野に、花は開く」 五味 一 牧師
・讃美歌 11、296 (1.2.3.4)

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子
④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧ 岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

Table with 3 columns: 集会名, 参加者, 献金. Rows include 主日礼拝 (24名), 祈禱会 (5名).

♪ 本日の讃美歌 ♪

♪ 讃美歌 355 「主をほめよ わが心」。作詞はイギリス人医師ロバート・ブリッジス(1844-1930)とされていますが、おそらくスコットランド人のウィリアム・キースの詩をもとに作ったのであろうといわれています。キース(？-1600頃)についての詳細不明。曲もフランツ・ヨーゼフ・ハイドンか弟のヨハン。

♪ 讃美歌 284 「荒れ野の中で」。イギリスで一番愛されているレントの讃美歌です。作詞は英国国教会司祭ジージ・H・スミタン(1822-70)。父が海外医療宣教師だったことからインド・ボンベイ(ムンバイ)で生まれました。彼の生涯は、ちょうど大英帝国全盛期「ヴィクトリア朝」と重なります。ということは、裏を返せば、インドやアフリカや中国から莫大な利益が大英帝国へ運ばれた時代です。この時代、英国国教会に大きな変化が起こりました。宗教改革来、詩編しか歌わなかった国教会で、創作(自由)讃美歌が公式の礼拝で歌われるようになりました。その多くは華やかな都会の喧騒から離れた、静かな農村の人々の、牧会の中から生まれた詩歌でした。今日、その多くは歌われなくなりましたが、今でも歌われているものの一つが「荒れ野の中で」です。聖書に忠実な詩だからです。元の詩は「40日40夜」という聖書の言葉ではじまっているそうです。作曲者は不明です。

頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのころの すみずみにまで ゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころの すみずみにまで ゆきわたりますように

【本日の集会】

◇主日礼拝 午後2時 カフェ・ぶらぶら
◇お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【先週の説教から】

「水の上を歩く」

イザヤ 30:8-17

マタイ 14:22-33

ガリラヤ湖で弟子たちの乗った舟が嵐に遭い、遭難しそうになった記事は、福音書にいくつかあります。イエスが一緒のとき、弟子たちのみのときと。これらの記事は、湖上での嵐という自然現象に対するイエスの力を示す奇跡として古くから親しまれてきました。現代においても、わたしたちは自然の力の前にうろたえ、涙することがしばしばあります。

こうした記事を読むとき、教会はしばしば自然をも支配する、イエスの力に焦点を合わせて神の奇跡を語ります。しかし、聖書は自然の脅威を支配する神や自然の力に対抗する神の力を伝えているのではないでしょう。舟にイエスが同乗していても嵐は起こりました。この時、弟子たちは眠っていたイエスを起こして、助けを求めました。嵐が治まった後、弟子たちは「この方はどういう方なのだろう」と、イエスと自分たちとの関係を問いました。

五千人を越える人々に食べ物を与えた大仕事の後、イエスは弟子たちを無理やり舟に乗せて送り出し、自分は祈りに向かいました。岸を離れて間もなく、舟は逆風に襲われ、進むことも戻ることも出来なくなり、闇の湖上で一晩過ごしました。明け方、イエスが湖上を歩いてきました。安心したペトロは「わたしもそちらに行かせてください」と、水の上を歩きはじめました。途中、風を見て怖くなり、声を上げて、イエスに助けを求めました。イエスは彼の手をつかまえました。この出来事を見た弟子たちは、「まことに、あなたは神の子です」と、告白しました。

これらはいずれも、自然を舞台にした、弟子たちとイエスとの関係を伝えています。弟子たちが乗った舟は、この世にある教会でしょう。つきつめれば、それはこの世にあるわたしたちです。わたしたちの営みは水の上を歩く、一人ひとりです。晴れの日もあれば、雨や風、嵐の時もあります。足元を見れば、板も浮き輪もない水の上です。わたしたちの営みには何の保障も確かさもありません。首まで水に沈みながら（詩編 69：2）、だれかに手を捕まえられて歩いています。

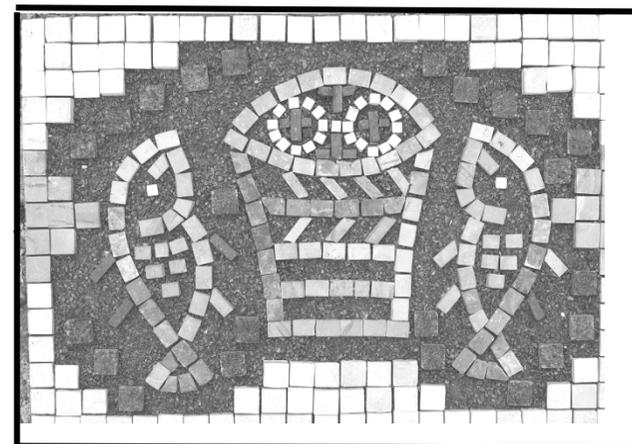
預言者イザヤは、東のアッシリアと西のエジプトの間に挟まれた小さな国イスラエルが、どのようにして神の民で在り得るかを語っています。イスラエルが神の選びを反故にして（罪）＝エジプトの軍事力を頼み、「エジプトの陰に身を寄せる」ことを、厳しく責めました。そして、「立ち帰って落ちていれば救われる。静かにして信頼していることにこそ、あなたがたの力がある」（イザヤ 30：15）と。

「主は高みから手を差し伸べて私をつかみ、大水から引き上げる」（詩編 18：17）。大事なことは、だれがあなたの手を捕まえているかです。

日本キリスト教団浦河教会

週報

No.47 2021年2月21日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043